

海の事故情報（七管区） 【速報値】(2月28日～3月6日)

令和4年3月10日

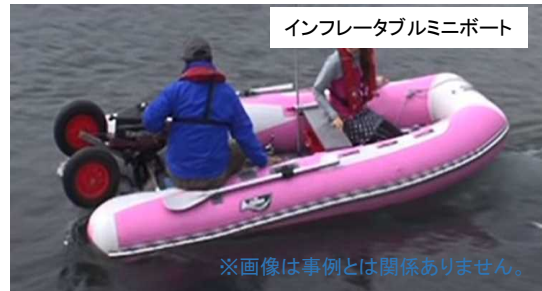
船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	2月28日(月)	長崎県	遊漁船	運航不能
	3月1日(火)	長崎県	貨物船	乗揚
	3月4日(金)	長崎県	プレジャーボート	運航不能
人の事故	3月5日(土)	佐賀県	漁船	乗揚
	発生日	発生県	事故区分	事故内容
	3月1日(火)	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落
	3月4日(金)	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落
3月4日(金)	長崎県	マリレ以外の海浜事故	海中転落	
3月4日(金)	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落	

ミニボートのヒヤリハット事案

【問合せ先】
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川
安全対策調整官 川部
Tel: 093-321-2931 (内線2640)

【ヒヤリハット事例】

令和4年3月3日12:55頃、男性4名が長崎県の神ノ島沖合でミニボート(インフレーター)3隻を使用し釣りをしていたところ、急激に波が高くなり、陸岸に戻れるか不安になったため、海上保安庁に救助要請をした。救助要請後、エンジンを使い、波間を縫うようにしてなんとか自力で陸岸に帰りつき、事なきを得たもの。
当時8m/sから10m/sの風が吹いていたと推定されます。



※画像は事例とは関係ありません。

風と波の関係

周囲の状況から風が何メートル吹いているか等を表し階級分けした「気象庁風力階級表」というものがあり、そのうちの海上状況部分を下図のとおり示しました。

ミニボートはその構造から、「波高20cm以上」「風速4m/s」以上では、安全に航行できないと言われており、気象庁風力階級表を見ると、「風力3」以上から4m/s以上の風が吹き、波の高さも高くなります。実際に海上を見て「ところどころに白波」が確認できれば、安全に航行出来ないと判断しましょう。

風力階級	海上の状態	風速	参考波高(メートル)
0	鏡のような海面	0.3m/s未満	0
1	うろこような小さな波が、波がしらにあわはない。	0.3m/s～1.6m/s	0.1
2	小波の小さいもので、まだ短いがはっきりしてくる。波がしらが滑らかに見え、砕けていない。	1.6m/s～3.4m/s	0.2～0.3
3	小波の大きいもの。波がしらは砕けはじめる。あわはガラスのように見える。 ところどころに白波が現れることがある。	3.4m/s～5.5m/s	0.6～1.0
4	波の小さいもので、長くなる。白波がかなり多くなる。	5.5m/s～8.0m/s	1.0～1.5
5	波の中くらいのものでいっそうはっきりして長くなる。白波がたくさん現れる。(しぶきが生ずることもある)	8.0m/s～10.8m/s	2.0～2.5
6	波の大きいものができはじめる。いたるところで白く泡立った波がしらの範囲がいっそう広がる。(水しぶきを生ずることが多い)	10.8m/s～13.9m/s	3.0～4.0
7	波はますます大きくなり、波がしらが砕けてできた白い泡は、風下に吹き流され始める。	13.9m/s～17.2m/s	4.0～5.5



※ ミニボートが安全に航行出来る風と波 ヒヤリハット事例の風と波

◆ミニボートに乗船時の注意事項

・気象・海象に注意しましょう。

ミニボートで出航する時は、必ず事前に気象情報を確認しましょう。また、実際の海上では天候不良(風力3の状態)の場合もあります。気象・海象に少しでも不安を感じた場合は、出航しない、または早めに帰港する判断も必要です。



・船のバランスに注意しましょう。

ミニボートは、船体が小さく軽量のため、揺れやすく不安定です。乗員や荷物の配置に注意し、重量が片方だけによらないようにしましょう。また、船上で立ち上がると、重心が高くなりバランスが悪く、海中転落する危険性が高まります。移動する際は、他の乗員に声をかけ、バランスに注意し出来るだけ低い姿勢で動きましょう。



この他にも、ミニボート乗船時の注意事項はたくさんあります。下記の二次元コードから注意事項や知っておくべき知識などを身に付け、安全運航に努めましょう。

詳しくは、HP「ウォータセーフティガイドのミニボートに関する情報」を確認しましょう。

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/watersafety/miniboat/index.html>

